

2022 年 5 月 25 日

学校法人三幸学園
福岡医療秘書福祉専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 大庭 欣二

学校関係者評価委員会実施報告

2021 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 大庭 欣二 （福岡福祉向上委員会）
- ② 南川 弘明 （社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院）
- ③ 村田 隆成 （2015 年度卒業生）
- ④ 井上 慎 （2014 年度卒業生）
- ⑤ 北村 岳人 （株式会社リクルート）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022 年 5 月 25 日（会場 福岡医療秘書福祉専門学校 501 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2021 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 大庭 欣二

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学生募集

コロナ禍での学生募集であったため、従来の来校型に加え、オンライン型と動画型の3パターンのオープンキャンパスを展開した。

来校型では、本校の魅力の一つである「教員と学生の距離感の近さ」を意識して打ち出し、動員数は前年度より微増となった。オンライン型においては、ZOOMを使った生配信型として土日とあわせて平日にも配信をした。また遠方の学生への対応としてZOOMを使用した個別相談も実施した。動画型においては24時間いつでも進路活動ができるよう、Youtube 動画を作成し配信した。

また学生スタッフによる活躍も目立つ内容となり、高校生の立場に寄り添った内容となったと感じる。

また、前回の当委員会において、高校生へ魅力を発信し続けることの重要性をアドバイスとしていただいたので、SNSによる発信をより強化した。

入学に対する不安解消のために、入学予定者向けのオンラインホームルームを入学前に実施した。

学生指導

医療校 人材育成方針「相手のこうしてほしいを理解し考え動ける人材を育てる」に基づき2021年度テーマを「向き合い方を考える教務」とし、取り組んだ。その中で「教科指導（技術）」「生活指導（心）」を大きな2つの柱とした。

「教科指導（技術）」においては、検定合格率の向上に向けて、検定 week の作成、雰囲気作りの為に検定当日までのカウント日数を掲示するなどした。コロナ禍の影響で検定直前がオンラインとなる教科もあったが、高い合格率をキープすることはできた。また、実践力を養成する授業では、Google Meet の使用や、SANKOGATE の活用の他に対面授業でもICTを活用したことで現場と連携することができた。

「生活指導（心）」においては、「挨拶の徹底」「掃除の徹底」「反応の徹底」に関してコロナ禍も踏まえ、状況に合わせた対応ができ、自主的に行動できるよう HR などにおいて、ケースワークにて指導するなど工夫して行った。年々、学生の多様化もあり、スクールカウンセリングの活用も多くなったため、より一層一人ひとりに合わせた対応を心掛ける教務となった。

就職先への連携

2021 年度就職基本方針を「キャリア支援の強化」「対外活動の強化」におき、学生へ指導してきた。しかし、コロナ禍の影響にて、どの分野においても求人数の推移が減少した。そのため、「キャリア支援の強化」として、学生への就職先希望調査、面談の実施、福岡市内医療機関へ求人票の一斉発送、卒業生の在職する医療機関への電話がけ等、一つ一つ丁寧に行っていた。「対外活動の強化」としてボランティア活動やインターンシップが就職先、学生の両方にとってプラスになると考えるため、今後も引き続き繋がり強化を行っていく。ガイダンスや行事を通して卒業生講話を実施。インターンシップを取り入れたことで学生と就職先のミスマッチを防げた。

② 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・各業界に沿った「相手」のこうして欲しいを理解できる人材を育成するとともに、医療や福祉に携わる者として相手を尊重し、寄り添うことができる人材を育成する。
- ・社会および業界のニーズの把握を強化する。

② 今後の改善方策

- ・教育理念、人材育成像の継続した掲示（見える化をすることで学校の教育特徴を創り上げていく）
- ・2021 年度に行われる実習就職アンケートにおいて、現場が求める資質や能力について得られたデータを分析し、教務方針・目標に取り入れていく。
- ・スタートアッププログラム（新入生研修）や学校生活でのクラス目標設定の際、相手（クラスメート）のために自分は何ができるか、常に相手を尊重した言動ができるよう、積極的に働きかけていく。また、クラスの中での自分の役割を考える機会とするために、1 人 1 役の委員を設定など工夫する。
- ・福岡市福祉人材協働ワーキング等、業界関連の方々との情報交換の場には積極的に参加し、社会や業界が求めている人材について、タイムリーに教育内容に反映していく。
- ・医療事務育成にあたり、福岡県医師会にご協力をいただき、医師が求める事務職の資質について理解、および、指導を深める。
- ・教材の電子化を検討する。

③ 特記事項

(診療情報管理士科)

- ・新入生保護者説明会において、学園の教育理念とともに診療情報管理士に求められる人物像と診療情報管理士の仕事内容を説明し、学生が目指す職業の理解を深めていただいた。
また認定試験の内容と合格に向けた3年間のカリキュラムについても説明した。
- ・授業内容として病院受付をイメージしたシミュレーション型授業を取り入れた。

(介護福祉科)

- ・新入生保護者説明会において、学園の教育理念とともに介護福祉士に求められる人物像の説明を行った。
学生だけでなく保護者にも説明することで、より教育目標が浸透し、2年間のカリキュラムが何を目指して体系化されているのか、ご理解いただいた。その結果、国家試験前には、合格に向けて、保護者と連携してサポートしていくことができた。
- ・実習施設に訪問の際には、学校に何を求めるのか随時ヒアリングを行い、教育内容に反映するよう努めた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・大庭委員(介護福祉科について)

専門学校ごとの特色よりも、個人色が強い。

・南川委員(診療情報管理士科について)

専門学校卒の学生は管理士になりたい気持ちが強いが、どんな仕事なのか理解が薄い。受付から始まり、管理室業務というようになることを伝えるのは良い。視野が狭まらないようにしていきたい。診療情報管理士という職業が弊害にならないようなサポートをしてあげてほしい。

「何かありますか」という声かけや積極的に掃除することなどが実習生の行動として良い。

・北村委員(介護福祉科について)

繋がるプロジェクト等を通じて、この学生は三幸学園の学生かもしれないという肌感覚はある。積極性・主体性がある学生が多い。

・井上委員(診療情報管理士科について)

専門学校ごとというよりは、大卒・短大卒・専門学校卒では違いがある。専門学校卒はコミュニケーション能力が高く、先輩や患者様とも話す。

・村田委員(介護福祉科について)

仕事に対する動き方や考え方は専門学校で学んだ経験が活きている。現場では実習指導者のペースで進んでしまいがちだが、自分で考えて動けるようになることは学校で学ばないと得ることができない貴重な経験であった。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・社会貢献、SDGsへの学生主体の取り組み
- ・経理処理に関する電子化

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス研修やハラスメント研修を行い、職員の意識を高める。
- ・在宅勤務とフレックス勤務の柔軟な対応
- ・自治体との連携、地域から必要とされる学校運営
- ・経理における、電子帳簿法に対応する管理、および、現金取り扱いなしのための PayPay 導入
- ・ペーパーレスに向けた取り組みを全教職員にて検討

③ 特記事項

- ・就業規則、職員行動指針を設定し、年度ごとに改定している。内容については職員会議で共有している。
- ・在宅ワーク、フレックスを利用した出勤体制を積極的に取り入れた。
- ・インフォクリッパーによる学生情報のシステム化を行い、教務に関わる教務事務についても研修を行った。
- ・継続的に、ノー残業デーを、年度初めに設定することで、ワークライフバランスや業務効率化の意識を高める
- ・電子出席簿の完成度を高める。
- ・美化委員の設置に伴い、SDGsの取り組みについて学生主体で検討させる。同時に SDGsプレゼン大会を実施。
- ・職員室のフリーデスク化により職場環境がきれいになり、目的に合わせた配置が日々行える。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・大庭委員(介護福祉科について)

現場の職員に対してのコンプライアンス教育は難しい。文章だけでは理解しづらい部分がある。見えないところまでどこまで意識しているのかの把握も困難である。将来携わる者として重要性を伝えていくことは大切である。直接の介護だけではない、その先を大切にしていく職業の為、若い頃から学校以外でのコミュニティでのふるまい方を理解しておくとの良い。医療と福祉では ICT 化の導入が大幅に異なる。加算等の都合でこれからようやく電子化を進めていく段階である。学校での学びでは当たり前タブレットを使っていくことで、現場に ICT 化の流れを導入していきたいと考えている。

・南川委員(診療情報管理士科について)

動画や文章でのコンプライアンス研修になってしまう。知らないことはいけないことなので、啓蒙活動はし続けることが必要である。ペーパーレス化の取り組みを行っている。カルテをPDF化している。同意書は記載後、電子化していく。バックアップの体制を整えておくことが重要である。

・井上委員(診療情報管理士科について)

保険証のコピーは紙が出やすいので、保険情報を読み取る機械の導入を検討している。

・村田委員(介護福祉科について)

利用者様の対応の合間を縫って紙で記録を残しているため、記録を残すことに労力を割いている現状がある。現場での一人一人の考え方によってコンプライアンスが守れているとは言い難い状況にある。学校で十分な指導をしてほしい。

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・ICT教育において、授業の実施は以前に比べると定着しているが、より授業の質を向上する。
- ・学生への実践的な職業教育を行うためにより一層産学連携を強化する。

② 今後の改善方策

- ・現場及び関係各所へのボランティアやインターンシップの機会を積極的に行う。
- ・オンラインで行われている教員向けの研修などには積極的に参加し、教授手法の技術を幅広く習得する。
同時にオンライン授業見学ができる環境を整える。
- ・現場の状況を把握し授業に反映させる
- ・介護福祉科における美容師(専門職)からの洗髪指導の実施。学園の強みを活かす。
- ・カリキュラムの一環で現場の方と連携し、行事だけでなく、授業や就職面接指導にご協力いただく。
- ・関連団体との連携を強化し、オンラインを利用し講話を実施する
⇒医療福祉現場と連携した教育を目指すため、医療機関や施設からの講師派遣の企業契約は可能か。

③ 特記事項

(診療情報管理士科)

- ・これまで課題だった認定試験までのモチベーションが維持や学習の定着を改善するために、医師による授業を通年で行った。

(介護福祉科)

- ・2021 年度からのカリキュラム改正により、教育内容の手引きや教育内容に含まれるべき内容(厚生労働省発信)をもとに、カリキュラム会議を繰り返し行い、全員で授業内容の確認を行った
- ・介護のIT化に合わせ、企業様と連携し、カリキュラム内容に反映させた。今年度からは善光会との連携により在学中にスマート介護士 Beginner の資格取得ができるようになった。
- ・コロナ禍により、小規模多機能施設やグループホームでの介護実習が行えず、学内実習となってしまったが学校全体を施設と見立て、実習指導者様や施設管理者様にご講話を行っていただくなど、できるだけ現場に即した実習となるよう工夫した。
- ・学生の提出物などは Google クラウドスルームなどを使用しペーパーレス化を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・大庭委員(介護福祉科について)

講師派遣の企業契約については、施設ごとで異なる。法人契約しなければならない施設もあれば、年次が上がれば個人契約も可能という施設もある。就業規則等の都合もある。現場からみても相互に良い影響を与えることができるのではないかと考える。

・南川委員(診療情報管理士科について)

医師は難しいが、診療情報管理士なら可能など、職種によって派遣の可否があったりするが、個人で報酬を受け取るのかどうか等を検討することは可能である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生が就職した病院や施設への訪問を行い、卒業後の状況を把握できるような仕組み作りを行う。
- ・卒業生による講話など、卒業生と学校（在学生）とのつながりを強める。

② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために入学時から保護者との連携を強め教員間でも情報共有と連携したサポートを行っていく。
- ・教育開発部主導で卒業生動向調査を実施し、卒業生の現在の進路等の調査を行い、検証する。
- ・継続して各種教育アンケート（授業・実習・卒業生）を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進める。
- ・求人や実習先の新規開拓と共に就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問、ヒアリングを実施。
- ・卒業生の同窓会サイトの活用。今年 11 月に 2021 年度卒業生向け同窓会を実施予定。

③ 特記事項

- ・学科毎のチーム制とし、学科会議の時間を設け、学科内の学生共有を行った。
- ・学科間の連携を強め、学科ごとのニーズや課題に応えるために学科会議を定期的に実施した。
- ・学生の学校生活満足度や集団について問う「ハイパーQU」の実施を行い、タイムリーな学生指導を行った。
- ・具体的な結果は以下の通りである。

2021 年度進路決定率:診療情報管理士科業界内就職率 100%

介護福祉科業界内就職率 100%

2021 年度退学率:4.7%(学校全体数)

2021 年度資格取得率:診療情報管理士科 診療情報管理士認定試験合格率 100%

介護福祉科 介護福祉士国家資格取得率 100%

(クラスの中に国家試験対策委員会を作り、学生主体の意識づくりを行った)

- ・卒業生による職業ガイダンスを在学生に向けて実施し、業界の魅力を直接伝えてもらう機会を作った。
- ・従来の就職活動のスケジュールを見直したキャリア支援を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・井上委員(診療情報管理士科について)

入院係といった受付を経験してから診療情報管理士として働くことが多い。救急病院では救急事務というニーズが高まっている。とても通常受付との差別化を図るために、救急事務は専用のジャンパーを着用したりしている。医療従事者として活躍しているというやりがいも感じられると思う。柔軟性や個人情報の取り扱いについてなどの勉強が可能である。

・村田委員(介護福祉科について)

現場では亡くなった方に遭遇することが良くある。亡くなった方への対応を想定した学習や、社会人としての電話対応のスキルが大切であると感じた。

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・学生の個別性に合わせ、保護者との連携は更に強化していく必要がある。
- ・卒業生や中途退学者への支援体制づくりについて、社会のニーズに合ったものを行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・コロナ感染拡大防止のため、保護者面談等が実施できなかったため、定期的な電話連絡等でこちらから情報発信していく。遠方や来校困難はオンラインを利用し、保護者とも面談を実施する。
- ・オンデマンドを活かした行事運営を考え、学生自身も満足し、さらに保護者や医療や福祉現場の方にも参加していただけるような内容とする。
- ・学校行事はコロナ禍であっても創意工夫し実施に勤める。
- ・卒業生の同窓会 LINE を新規活用

③ 特記事項

- ・学生へのカウンセリングについて、スクールカウンセラーによる教員研修を実施した。
- ・保護者の学校理解がさらに進むよう、新入生への保護者説明会を学科ごとにオンラインで実施した。

(診療情報管理士科)

- ・診療情報管理士科研究発表会はオンラインで実施したことにより、鹿児島県や長崎県など遠方の医療機関の方にも参加していただいた。
- ・診療情報管理士科研究発表会内での卒業生講話の実施。

(介護福祉科)

- ・学びの会については、オンライン開催とし、学生のコロナ禍における2年間の学びについてご報告させていただいた。オンラインでの配信の仕方などの技術やマナーを含め、パソコンやタブレットの使い方を学ぶ良い機会となった。今後、社会に出るうえで、必要な機会になったと考える。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・井上委員(診療情報管理士科について)

学生時代に、現場の方に伺いたいこととしては、分析したデータ等でどんなことができるのかという、仕事の幅について聞きたかった。先輩方に聞きたいと思ったことは特になかった。実際に働いている姿や環境の映像を提供することは可能だと思われる。

・村田委員(介護福祉科について)

学生時代は、働くとはどういうことだろうとは考えていたが、先輩方から話を伺ってもイメージを持ちづらかった。現場の方には特になかった。施設長の許可があれば、働き方の動画提供は可能だと思われる。

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

高校生のIT化は進んでいる。使用方法についても問題ない認識である。熊本県の公立高校はタブレット端末を県から支給されている。紙授業からデジタル授業に60%の高校が変更している。高校生が使っているデバイスはスマートフォンだが、授業ではタブレットPCを使っている。OSは学校による。インターネットエクスプローラーは使用していない。おそらくGoogleが最も使われているのではないかと推測される。

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・新校舎設立に向けて、業界に即した学びができるよう、計画している。保守管理企業様と円滑な連携の上、より安心・安全な教育環境の維持向上に努める。
- ・学生1人につきPC1台保有
- ・新規実習先の開拓及び、実習内容のすり合わせ。
- ・安全点検防災訓練の実施

② 今後の改善方策

- ・秋の避難訓練を行う。
- ・新規の実習先の実習内容を確認し、学生へのアフターフォローも徹底する。

③ 特記事項

- ・校内の Wi-Fi 環境の整備を行い、全館で学生も教員も使用できている。
- ・SANKO GATE(学生・教員向け連絡用アプリ)を取り入れ、緊急の連絡網や変更点をタイムリーに伝達している。
- ・全教室に避難経路マップを掲示し、年度初めに避難経路、避難場所の確認を行っている。
- ・地域密着型施設や障害児施設など、更なる実習施設種別の充実を図った。(介護福祉科)
- ・学生の教材にタブレットを 1 人 1 台導入した。(介護福祉科)
- ・新校舎移転に際し、介護実習室には最新の介護ロボット機器を導入し、眠りスキャンなどを整備した。(介護福祉科)
- ・多目的実習にてシミュレーションの授業を行うことができ、より実践に近い授業内容となった。(診療情報管理士科)。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・大庭委員(介護福祉科について)

素晴らしい環境で学べてうらやましいと思った。道具を活用して ICT を使いこなすことが大切だと思う。直接的な介護に関わらない ICT 化については導入していったほしい。介護ロボットは現場では活用できていないことが多い。導入すら行われていない施設もある。しかし、遅れた介護をしているわけではなく、介護に対しての向き合い方・考え方の違いであるため、就職先を IT 導入の有無で検討する必要はない。

・南川委員(診療情報管理士科について)

新規実習先の開拓・すり合わせで気になっていることは、病院の規模間によって業務が全く異なる為、本人の希望と本当に合っているのかが気になる。本人の将来ビジョンに合ったところに実習先に行くことが重要である。実習先も規模間を伝えたくて選択できるようにしてあげると良い。

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

施設設備は他校が真似できない部分ではあると思う。他の学校法人では医療事務だけでなく、本人が理学療法士を学びたいといった際に、姉妹校がある為学ぶことができるようになっている。学生の価値観が多様化しているため、多様化した学び方を検討していくことも良いのではないかな。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・コロナ禍における学生募集。ガイダンスが軒並み中止となる中で、福岡県外生への募集活動が苦戦した。
- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え、学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。留学生の受け入れも引き続き積極的に行い、介護人材不足に対応できる学校となる。
- ・学生募集活動の早期化。高校生だけでなく中学生対策も必要。中学生に職業内容や魅力を理解してもらう。

② 今後の改善方策

- ・近年は学費支払いが困難であることを理由に進学辞退する学生も多くなっているため、特に保護者様に対して入学説明会やパンフレットを通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額を分かりやすく伝えられるよう努めていく。
- ・県外対策として、オンラインオープンキャンパスの内容強化を行う。（来校と変わらないオープンキャンパスの実施）
- ・中学生対象の職業体験を積極的に参画し、キャリア教育にも関わる。

③ 特記事項

- ・地域で設定されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて魅力を正確に伝えられるように計画的に活動を展開している。
- ・保護者向け学費説明会はオンデマンド動画にし、Youtube で配信。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・北村委員（診療情報管理士科・介護福祉科について）

中学生以下のアプローチ方法としては、授業や長期休暇の時の宿題としてリーフレット作成を行うというやり方がある。個々の価値観に合った学び方がどれだけできるかが重要になってくる。多様な学びを提供するコンテンツを作成し、魅力的に対象者に届けることが必要ではないかと思われる。金銭的理由で進学を諦める高校生に対しては、無償化の制度を知らない高校生・高校教員が多いため、最初に説明してあげることも大切である。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己点検/評価は学校関係者評価委員会を通じて、問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。

② 今後の改善方策

・法令/コンプライアンスの遵守と個人情報の保護・管理の徹底に努める。
・個人情報取り扱いの為の同意書の記入と個人情報管理の徹底の周知を職員会議等で行い、教職員の意識向上に努める。

③ 特記事項

・実施結果は学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。
・2021 年度教務監査の実施有。適切に管理しているとの報告
・今年度総務監査実施予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献の提案、企画。
- ・地域や一般の方々に向けた公開講座やイベントを提案し、学生の学びと連動する機会をさらに設けていく。

② 今後の改善方策

- ・コロナ禍にありながらも、市町村および関連企業様との連携やボランティア活動の情報収集を強化しながら地域の活性化と貢献度向上に繋がる教育活動をさらに広げていく。
- ・新型コロナ感染防止による医療機関や介護施設の業務量増加を少しでも軽減できるよう、ボランティア活動を推進し、主に就職担当者を中心に実習以外での学びの場、考える場を提供していく。
- ・地区行事への参加、地域への教室の貸し出しに協力する。

③ 特記事項

- ・博多区まちづくり推進委員会主催のクリーンデイへの参画
- ・福岡県障がい者スポーツ大会へボランティアとして参画

④ 学校関係者評価委員会コメント

・大庭委員（介護福祉科について）

学生の地域参画は大切である。学校からの情報提供だけでなく、地域の人々に社会が何を望んでいるかという講演を行っていただくことも大切である。支えるべき人は目の前の人たちだけではないことを伝えていくことも大切である。

・南川委員（診療情報管理士科について）

地域のイベントに参画することは住民の人々に愛されるようになるのではないかとと思われる。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・本多副校長

本年度も本校の教育理念である「技能と心の調和」を掲げ、医療、福祉業界の人材育成に貢献したい。

「心の教育」への取り組みとして、近年「積極性」「自主性」の不足と、「マナー」の不足を感じ、学生には、成長する機会を多く与え、自らが考えて、行動する機会を多くする。その一つとして、地域清掃は学生も参画するよう検討したい。「マナー」においては、挨拶を基本に適切な言葉遣いなど、改めて基礎の教育を強化する。

また、精神的なサポートを必要とする学生も増えており、心理的サポートも引き続き実施する。

「技能」の点では、個人の学びの自由を拡大し、学園の強みである大学や短大への編入制度などの利用促進を勧める。また、学習システムは、デジタル教材の活用など、今の学生が学びやすい学習環境の提供に努める。

同時に教職員のICTへの取り組みを強め、ペーパーレスを目標に進めていく。

これからも、学生とともに、地域から愛される学校になるべく邁進していく。

以上